談論風発
INTERVIEW

金花 芳則
KANEHANA Yoshinori

川崎重工業会長
関経連副会長

いま、地球環境の未来に向けて

～先駆けた取り組みで関西の発展を～

このたび関経連の副会長を拝命し、地球環境・エネルギー委員会を担当させていただくことになりました。微力ながら、これまでの経験を生かして貢献できればと考えています。

弊社は環境に関する技術開発に長年取り組んできました。扱う製品が地球環境と結びついていることもあり、「世界の人々の豊かな生活と地球環境の未来に貢献する“Global Kawasaki”」をグループミッションと定め、環境に対する意識を高く持ち事業を行っています。

2017年には持続可能な社会の実現に向け、「CO_2 Free」「Waste Free」「Harm Free」を3本柱とする「Kawasaki地球環境ビジョン2050」を策定しました。また、水素サプライチェーンの構築には10年以上前から取り組んでいます。こうして築き上げてきた知見を地球環境・エネルギー委員会の活動につなげていきたいと考えています。

私自身はサステナブルの観点から、「プラネタリー・バウンダリー」に注目しています。これは、いわば地球の健康状態をあらわす概念で、「気候変動」や「成層圏オゾンの破壊」などの9項目について「その境界内であれば、人類は発展と繁栄を続けられるが、越えてしまうと取り返しのつかない環境変化が地球に生じる」という考え方です。今後、委員会の活動を通じてこの概念にもアプローチしていければと思っています。

さらにもう一つ私が関心を持っているテーマがダイバーシティです。英国と米国で計20年を過ごした経験から日本の遅れを痛感しています。2007年まで駐在していた米国は、LGBTの方がカミングアウトしやすい環境にありました。ある男性社員が、「実は、気持ちは女性です」とカミングアウトし、それを周囲が温かく受け入れて以来、それまでとは別人のように素晴らしいパフォーマンスを発揮するようになりました。日本は、人事制度をはじめまだまだLGBTの方々にとっては厳しい環境にあります。しかし11人に1人がLGBTとも言われるなか、それに関連した理由で優れた人材の能力が存分に発揮されていないとしたら、非常にもったいないことです。関経連でも今年度からD&I専門委員会が設置されましたが、女性や外国人などに加え、こうした方々の活躍の舞台を他の地域に先駆けて準備することを検討してはどうでしょうか。

私が若い人と話すのが好きということもあり、社長時代から社内のコミュニケーションを重視してきました。若手社員等と直接意見交換できるよう社内SNSを立ち上げ、私も役員も積極的に参加するようにしたり、カンパニープレジデントと一対一で対話を続け、合宿で侃々諤々議論をしたりしてきました。その流れは今も引き継がれています。コロナ禍のいま、コミュニケーションの取り方は大きな課題となっています。私には関西はコミュニケーション巧者が多い土地柄という印象があります。そんな関西発の良い解決法を提案できないかとも考えています。

入社間もないころ、上司から、老子の「善く行く者は轍迹(てっせき)なし」という言葉をいただきました。できる人間ほど、業績を誇示したりせず、迹(あと)を残さないものだ、という意味です。自己顕示欲の強かった当時の私への戒めとしておっしゃったのでしょう。轍迹とは車などの轍(わだち)のこと。鉄道車両の製造に携わってきたこともあり、この言葉に不思議な縁を感じ、座右の銘として深く胸に刻んでいます。

皆さまとのコミュニケーションも大切にしながら、関西の発展に向け、全力で取り組んでいく所存です。（談）